



神戸市会議員



岡田ゆうじ

垂水区中学生 いじめ問題に関する 議会発言要旨

2018年2月22日 神戸市会文教こども委員会

○委員（岡田ゆうじ） 遺族の方の要望に応じてないわけですよ。追加調査をしてほしいと言われて拒否をしたわけですよ。ただ調査書をオープンにしないというときに至っては、いや遺族の方がそう言っておられるからと、こういうときばかり遺族の方を利用しているわけですよ。これはおかしい問題ですよ。皆さん、いじめで亡くなられたお子さんの、遺族の方の立場に立って考えたらそういう答弁というのはできないと思いますよ。いじめを生んだ背景について、生徒間関係の記述について調査がないから調べてほしいって報道では出ているのです。それは当たり前のことじゃないですか。いじめを生んだ背景を調べなきゃ、いじめに関する調査報告にならないじゃないですか。（中略）

私は、**今の教育委員会の対応というのは、第三者委員会の対応というの、まさに、刺激的な言葉を使えば、泣き寝入りを待っているだけです。**ずっとずっと時間を稼いで問題を風化させたら、やがて3年たったら総入れかえですね、生徒が。やがて問題は風化していくだろうと。どうせ皆さんそうになったらもうどうしようもなくなるだろうと、こういう態度をとっているとした見えませんよ。（中略）

私は、雪村教育長を含めて、以下教育委員会の幹部皆さんのこれは責任論になると思いますよ。こんな対応で、私は一般人のセンスとして許されない問題だと思いますよ。新聞報道を見られた方は、何で第三者委員会は追加調査をしてあげないのだろうと普通に思い

ますよ。教育委員会、大変そうだから、教育委員会かわいそうだね、なんて思う市民の方、1人もおられないですよ。

何で追加調査しないのだろう。何で報告書の公表をして、公表できる部分でも公表して、今学校に通われている——**現に学校に通われているお母さん方、お子さん方に、ここはひとつ安心してくださいます。同じことを、同じ悲しい出来事をもう繰り返さないためにこういうことを教訓にしていまいますと、いう報告が何でできないのか。**

みんな、そういうことをして当たり前だと思っていると思いますよ。それを今「明確にしません」と、「第三者委員会終わりました」と、「なぜなら報告書をつくることだけが仕事だからです」と。「後は知りません」というのでしたらね、これは許されざる問題ですよ。この泣き寝入りを私は絶対に許さない。

というのは、同じ事件が、例えば3年後、5年後起こったときに、雪村さんが教育長だったときどうしたか、そういえば報告書1個だけつくって、後は何を言われてもずっと知らぬ存ぜぬで、ずっとほっかむりをしていたと。そしてたらうまくいったよと。そうなることだけは許せませんよ。**私はこれから政治家である以上ね、ずっとこの問題言い続けますから。**当然次の3月の委員会でもこの問題追及しますから。

そして、今現に通われているお子さんや親御さんの意見をもっと聞くべきだ。改めて、これは最後教育長、私は雪村さんの責任論になると思いますよ。

2018年3月22日 神戸市会文教こども委員会

○委員（岡田ゆうじ） 加古川市のいじめの事案で、2016年の9月に起こった事案で、ほぼ同じ時期に起こったものなのですが、加古川市はこうやって報告書が出ておまして、もう実際に今週オープンになりましたので、私も何度も何度も3回ぐらい読み返して勉強したわけですが、加古川の場合は、同じ時期に起こったことでも、こうして再発、そして将来にどういう提言をしていくべきかということについて、着実に歩み始めているんですが、神戸市ではなぜそれができなかったのかと、できていないのかということについて、教育委員会についても考えていただきたいし、まさに議会としても責任を感じるころであるのですけれども、その1点が、やっぱり報告書の公表についていまだなされていない点にあります。過去何度も何度も、これは質疑をされてきたことではありますが、なぜきょうまで報告書が公表をされておられないのか。（中略）

私も、文部科学省の初等中等教育局の児童生徒課の生徒指導室の

松林高樹室長に、国会議員の事務所を通じて照会をしたのです。本当に遺族の方の同意がなければ、こういう報告書というのは公開できないのかというと、文部科学省の生徒指導室のほうでは、必ずしも遺族の同意というのを絶対条件としておらないと。公に資するものであれば、総合的な条件を判断して御当地で考えてほしいと。

去年の9月の文教こども委員会で大谷部長は、「遺族の方に調査内容のことを把握していただいて、遺族の意向を確認しないと公表の範囲とかそういうことも、全て遺族の意向を聞いてからでないといけませんので」と、1つの答弁の中で2回言っているわけですね、「遺族の意向が」、「遺族の意向が」と。

(中略)これで私は前回、違和感を感じたのです。余りに遺族のせい、遺族が公開、同意しないからだというふうに寄せ過ぎているわけですね。だけど、文部科学省のガイドラインにもまさに、「総合的に勘案して適切に判断する」とあるのです。

だから、これまで公表しなかった、そして今も公表の方針をとっていない総合的な判断、適切な判断というのは何なのかと。何が教育委員会の中で総合的に判断してネックになっておるのか。(中略)

人事がかわって教育委員会の体制も変わっていくと思いますが、この間、何があったのか、どういう手落ちがあったのか。そういうことは、やっぱり責任を追及していかないといけないと思いますし、それは人事の体制が変わっても、当時の体制がどうだったのかということも検証をしていかなくちやならないと思っています。誰が見ても明らかに遺族の方は納得しておられないし、全然満足もされておられないのです。報告書については、マスコミもいい論評というのは見たことないですよ。厳しい意見ばかりです。議会でも、およい評価というのは出てませんので、これについて**このまま何もなしで責任もないということには、到底できないと思いますので、私はその点だけはっきり申し上げておきます。**

2018年4月27日 神戸市会文教こども委員会

○委員(岡田ゆうじ) メモが本当はあったということについて、この大谷部長と雪村教育長に報告をしたということなのですが、大谷部長は、要はメモが本当はあったということを知りながら、この間ずっと、8月に知って、これまでずっと答弁に立たれていたということでもよろしいんでしょうか、大谷部長。

○大谷教育委員会事務局学校教育部長 はい、そのとおりでございます。申しわけございませんでした。

○委員(岡田ゆうじ) 当然、教育長もそれを知って答弁されたわけで、その上で議会対応に当たっておったわけでありませう。

この隠蔽にせよ、職務怠慢にせよ、これは当たり前のことですけれども、悪質なものであれば刑事罰の対象になります。

隠蔽もそうでもあります。公文書の管理に関することでありますので、公務員の皆さんもみんな知っておられるでしょうけど、例えば刑法の258条などは、公用文書の管理——毀棄に関する規定がありますので、我々、別にそこまで司法の立場にいないので、厳密なことは言えないのですが、ただ、この隠蔽をしたという政治責任、行政の責任を我々問うときに、ああ、職務怠慢だったらしようがないなど、サボる人もいるよねと、そういうことにはならない。もしそうであるならば、責任を誰の責任になるのか、はっきりしていただきたいと思うんです。

(中略) もっと言えば、これは去年の8月の段階で、もう報告書は成立しないと、教育長も学校部長も教育部長も知ってたということなんです。だって、幾らメモなんかなくなっても、報告書の内容が完璧ですって言ったってですよ、今回みたいに「実はあったけど『ない』』と言ってました」といううそがばれたら、これはもう誰も報告書の価値なんか認めないです。

自動車が完成して、自動車を売るときに、ねじが1本ないのがわかってたと。それがわからなかったら、発見した後にはリコールとかそういうこともあるんでしょうけど、ねじがないと、この車はもう走らないとわかって出荷したわけですから、当然、民法のいわゆる買う、買わないの話でいったら、契約が成立してませんし、皆さんの行政サービスの観点でいったら、最初からこの報告書はもう効力を失うということをして学校教育部長と教育長は認識をされていた。

(中略) この報告書はやがて効力を失うということがわかっていて行った行為でもある。これは重大な背任であります。

(中略) 我々市議会で最初に確認しないといけない、一番我々大事にしないといけないのは、**今回、勇気ある告発をしてくれた校長先生、彼の不利益が絶対にならないようにしないといけない。**

何でこんな言い方をするかというと、私も文教こども委員会として本会議でこの問題取り上げて、2月、3月とこの文教委員会できろいろ質問をしました。今みたいなトーンで割と皆さんの耳に痛いことも言いました。そうしたらですね、まあいろんなところの関係から、私の後援会含めて、あなた、教育委員会に対してひどいことをしてるんだと来るんです。(中略)

ちょっと、きょうマスコミも入って、余り生々しいことは言えませんが、私みたいな議員の立場ですら、それだけの圧力を受ける。なのに、この校長先生は、8月の段階で、多分教員の中ではもう当たり前になってたんですよ、もうメモはあるに決まってるのに、前の校長が「ない」としたから、「もう、なしだよ」と言ったんですけど、校長からしたら、それは全く知らないですから、8月の段

階でどうなのかなって調べたら、実はあったと。これはとんでもないことだと思って、差し出したわけですよ。ここに真実があるといつて。

だけど、当時の教育長は、それを隠蔽した。大谷部長もそれを御存じだったけど世に出さなかった。その前の校長は、あるのに「ない」と言ったのです。それは組織人としてはそうなのかもしれない。教育長——教育委員会のトップが、ドンがないと言っているのだから。それであると言ったらとんでもない目に遭うというのがわかっています。だから、前校長はそういう態度をとったんです。

だけど、8月の段階で今の現校長は——新しい校長は、「ある」と勇氣ある告発をされたけど握り潰された。私だったら、もう怖くてそれ以上告発できないですよ。とんでもない目に遭わされるなと思うんでね。

(中略) 私は自身が受けた——誰からとは言いませんけども、いろいろな圧力を受けた。校長先生はまさにこれから教育の現場で、そして市役所の中で公務員として生きていかなくちやいけないうのに、自分にとって何のメリットもないかもしれないのに、勇氣を持って今回訴えをしたのです。だから、絶対にこの議会で、我々に対して約束をしてほしい。今の校長には絶対に不利益なことをしない。絶対にそういう迫害をしないと申明してほしい。(中略)



○委員 (小林るみ子) やはり子供たちの心をつかんだ報告は、やはりいじめとか自死の原因と責任の所在を明確化することにもつながっていきますし、二度と再発がないようにということを考えたときに、大変貴重な資料だというふうに思いますので、当然これは第三者委員会に提供しなければいけない、そういう記録だったというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○大谷教育委員会事務局学校教育部長 先ほどから申し上げておりますように、そのメモをとられたことを、校長とか全員に報告している内容を、そこにおります指導主事がもうずっと常駐しておりますので記録をとっております。それは委員会で、もう逐一全部情報として来ておりますので、今回出たようなあのメモの中身は全部文書で我々は第三者委員会に提供しております。ですから、あの中身が全く伝わってないということとはございません。(中略)

あのときにあのメモは、我々も存在はわかっておりません。結局、遺族からそのメモがあるだろうと出たのが2月のあの終わりまして、それまで私どもがそのメモに対してそういう存在があるということの認識は全くございませんでした。あの時点で学校長は、いろいろ探したんですけど見つかりませんでしたというようなことを言っているの、ああ、なくしはったんかなという、その程度の認識でございます。(中略)

○委員(岡田ゆうじ) この中継を遺族の方もごらんになっているかもしれないし、2年間ぐらい保存されますので、後からごらんになるかもしれませんが。本当に二次被害の典型だと思いましたのは、先ほど学校教育部長が、葬式の直後に訴えをしてくれてくれた子供たちのメモを、『ああ、なくしはったのか』という認識だった」ということを言われて、これは本当に遺族の方が今の言葉を聞いたら本当に無念だろうなと思いますよ。

私の子供が死んで、調査を担当した人が、「ああ、あのメモですか、なくしはったのか、そういう認識です」と言われたら、私ここから今からあなたのところにつかみかかっていきたいぐらいだよ。全てを象徴しているじゃないか、あなた方の調査を。

何だ、「ああ、なくしはったのか」って、何のための調査だったんだ。冗談じゃないよ。

2018年6月6日 神戸市会文教子ども委員会

○委員(岡田ゆうじ) この文教子ども委員会においても、これまでずっと再三この案件について議論してきた中で、大事なことは、この問題を風化させたり、泣き寝入りをさせたりしないぞと、私は2月のこの委員会で申し上げましたけれども、そのときに雪村前教育長は、一体何を根拠にそういうことを言っているのかわからないと、そういうことをおっしゃったわけです。教育委員会の組織として、一義的には第三者委員会の報告書に対して、そして我々議会に対して、市民に対して、どう対応していただくかが一番大事なのであります。

だけどもマスコミは、ある種、時間的な制約もあってか、この情報をもたらし側側の論理に乗せられてしまって、なるほど、首席指導主事というのは、「腹をくくってくれ」と言ったのかと、これはすごいことだなと、ドラマみたいだな、漫画みたいだなということになって、ああ結局、首席指導主事と校長が全部悪いのかと、あの2人だけが悪かったんだなと。今やあの2人はもう国民の敵ですよ。もう外出だっただけできないんじゃないか、こんなになってしまったら。

そして、一方で驚くべきことに神戸新聞の記事を見たら、市教委

はこの日の会見で「2人以外の経緯を知る教職員はいなかった」と組織的な関与を否定したと書いてある。産経新聞には、市教委は、対応は男性職員が独断で行って、要は彼1人と校長だけが悪いので、組織的な隠蔽はなかったと釈明したというんですね。

我々はそんなことを言ってきたはずじゃなかったですよ。当局もそういうつもりじゃなかったはずですよ。後藤さんは、前回のこの委員会の質疑の中で、責任があるのは教育長・教育次長・総務部長・総務課長・学校教育部長・担当課長・生徒指導係だということを書いていましたよ。ただ、それが隠蔽なのか怠慢なのかについては争いがあっただけであります。

この8カ月間の、私に言わせれば隠蔽が、どうして行われて、どうして第三者委員会の訂正に至らなくて、どうして我々議会に8カ月間うそをついたのか、そのことを証明してほしい。そのことが大事なことであった。弁護士の調査予定の項目の中にもそれがあったんであります。

後ほど言いますが、この調査を行った弁護士2人は、とても公平・中立とは言えないですよ。だからこのような、ある種、教育委員会の組織をかばって、この首席指導主事と前校長だけをどぶに落として、彼をたたいてやってください、彼らが全部悪いんですよ、そういう対応になってしまった。マスコミが、時間が限られた中で、世の中の関心を持ってもらうという意味ではよかったけれども、本当の論点、本当に重要な我々が問うべき行政のガバナンスの論点というのは、そういう意味でずれてしまったのであります。

だから、**我々は行政を監視する、行政をただすプロでありますから、我々議会は、**これから1つずつ、今マスコミの少し焦点がずれているところを直していきたい。そして、いわゆる本当に大事だったはずの論点——いわゆる教育委員会全体としての対応・責任が、なぜこの8カ月間、隠蔽と言われても仕方がないような対応になったのか、それについて明らかにしていきたいと思えます。(中略)



○委員（岡田ゆうじ） 長田さんは雪村教育長から引き継ぎを受けるときに、このメモについての引き継ぎを受けましたか。

○長田教育長 この垂水区のこの自死案件についての引き継ぎはもちろんございましたが、メモについての引き継ぎは受けておりませ

ん。

○委員（岡田ゆうじ） ねっ。雪村前教育長は「調査を指示したけれども私の力不足で」という弁解を、神戸新聞を使ってされておるようですけども、長田教育長に引き継ぎもしてないんです。（中略）

雪村さんは長田さんに調査を引き継いでほしいと思わなかったから、このメモの調査について引き継がなかったんだと思います。普通、教育長名で命令を出しているんだったら引き継いで当然であります。部下の働きが悪くて、ちっとも結果が上がってこないと、それだったらそう伝えればいいんであって、「長田さん、ちょっと檄、飛ばしてやってよ」と伝えたらいいだけであって、これは明確な意図として、「調査をしてもらう必要がない」ということであります。

首席指導主事と前校長はある程度そういう意味では正直に答えたんです。「腹をくくってくれ」と言ったと、言われたと、そういうことまでもう全て洗いざらいしゃべっているんです。それが全国に流れて全国民の敵になっちゃったわけです。だけど、それよりも長期の隠蔽をした、いわゆる教育委員会の前教育長、そして総務部長ら幹部は、ある種そこまで丁寧には語ってないから、今回そこまで掘り下げられてないんです。

（中略）この問題、ガバナンス全体を、教育委員会のあり方全体を問うものであります。我々議会、議員1人1人と教育委員会、そして市民・遺族と、考えていることがばらばらだというのはある程度しょうがないけれども、それをしっかりと統一をして、加古川でできたような取り組みを神戸でもできるように、教育委員会というのは生まれ変わって、しっかりと再生をしていただきたいと思う。



いじめのない垂水区、子どもの笑顔あふれる垂水区を

神戸市議員 垂水区 岡田ゆうじ

〒655-0044 神戸市垂水区舞子塚3-18-20
TEL・078-785-5171 / FAX・078-785-5172

岡田ゆうじ
ホームページ
mail@okadayuji.net
www.okadayuji.net

